

とりあえずなんかやってみて、あかんかったらなん

か他のこと考えたらいいや、みたいな

語り手 君付龍祐（高校十期生 海外大学院） 聞き手 富沢絢花

研究活動について

— どのなところに住んでいますか。

僕がいるのが、カナダのアルバータ州っていうところですよ。（日本だと）BC（ブリティッシュコロンビア）州なんか有名だと思いますけど、その一つ隣ですね。ロッキー山脈があつて、その東側のところですね。— 君付さんがやっておられたブログを見せていただいたんですけど、大学院では今どんな研究をしているんですか。

僕が今やってるのが、生痕化石っていう生物の痕跡の化石（動物の足跡や巣穴の化石）の研究ですね。白亜期だから、恐竜がいた時代に一緒に住んでいた、幼虫とか、ザリガニとか、あと二枚貝とかね。そういった無脊椎動物っていう背骨のない動物の生きていた痕跡を研究してるって感じですね。

— この研究をしようと思ったきっかけとかありますか。

今担当してくれている教授の授業に参加したのがやっぱ一番のきっかけですね。そもそも、アルバータ州っていうのが生痕学っていう学問の研究が結構進んでいて。そういう背景もあつて、フィールドもあるし、研究者の人もうちの大学にいて。でまあ、実際の授業聞いて、巣穴とかの化石だけで、動物の昔の暮らしもそうやし、その当時の環境がど

うやったかっていう、生物から環境のこととかもわかってくるっていうのがすごい面白くなって思ったのがきっかけですね。後は、僕は結構目に見えるものしか信じてないタイプの人間で。なかなか生物とかも、DNAの話とか、生化学の分野とかは、なんか頭では理解してるけど、よくわからなくなって。それよりも、生態系の話とか、もうちょい目に見える方がわかりやすいんですよ。

— 研究テーマを決めるのが難しいなと日々思っているんですけど、どうやって研究のテーマを決めているんですか。

いや、難しいよね。僕も大学の学部の間でも、色々悩んで。大学院生からの視点で言えば、やっぱり、論文をいっぱい読んで、なんかこれおかしいなみたいなところがどうしても出てくるから、そこやっていくみたいな答えにはなるけど。まあね、高校生とかは自分の興味のある話の中で、突き詰めていくっていうことなんちゃうかなとは思いますがけどね。

— 基本、一人で研究しておられる感じなんですか。

フィールド行く時に一緒に来てもらったりとかっていうのはあるけど、自分の研究はやっぱり自分で基本的にはやるんで。研究して、論文を書いて。僕は画像を使った研究とかも結構してて。写真を使って、三次元モデルを作るみたいなのがあつて、それは結構やるかな。具体的には二次元の画像だけやと、どれくらい盛り上がっているのかがわかりにくいけど、三次元やとそれがわかりやすくなるしね。あとは崖一面に巣穴があるつとときとか、崖を持って帰ることはできひんけど、その崖の写真をつっぱい撮っていれば、パソコンで後からデータにできたりとかね。やっぱり、フィールドに行く機会が多くて、それは結構楽しいですね。

—そうなんですね。これから研究をずっと続けていくんですか。

—そうやね。一応研究職で行きたいなっていうのは思ってるんで、大学とか研究機関とかに行ければなって。

—研究で大変なことはなんですか。

—一番大変なことは、多分、その研究するためのお金を取ってこなあかんっていうことですかね。僕ら大学院生としては、自分の担当教授が持つてるお金で研究をさせてもらえるから、ある意味一番恵まれてる環境ではあつて。だからこそこの期間に、自分のやつときたいこととかをやつとかないとあかんねんけど。実際に研究職に就くつてなると、研究費を探してきてくるっていうのが、多分一番大変かなつて感じやね。

—逆に、大学にいてこれ楽しいなつてこととかありますか。

—やっぱり、研究が楽しいかな。いや、今はもう研究しかしてないけどね。フィールドに行く機会とかも多いからやっぱりそれが一番。

## 探究活動と進路

—滋賀県在住の方でしたよね。

—そうですね。

—立命館守山を選んだきっかけとありますか。

—やっぱりSSH（スーパーサイエンスハイスクール）やつたからつていうのが一番ですかね。元から理系のことが好きだったんで。

—中学の時から、今行っている研究の分野には興味を持ってましたか。はい。

—（興味を）持ち始めたのつてどれくらいからですか。

—恐竜に関してはもうずっと昔からかな。福井の恐竜博物館とかよく行つて、その頃からずっと、恐竜に対する憧れみたいなのはあつて。そ

れで、もうちょい色々勉強していくうちに、地学全般に興味持ち始めてつて感じかな。

—この学校の二号館の廊下に、在学時の研究ポスターが張つてあるのを見たことがあるんですけど、どのような研究をおこなわれていたんですか。

—高校の頃は有孔虫つて言つて、プランクトンの化石（についての研究）をやつて。知多半島つていう、愛知県の西側の半島のところに、昔海やつた頃の堆積層があるので、その中からプランクトンの化石を探して当時の環境について探るつていう感じです。一応やっぱり同定（対象物が何かを特定する作業）とかは一人ではできないんで、その専門の人に色々手伝ってもらいながらではあるけど。基本的には一人でプロジェクトを進めていました。

—関わりの深かった先生とかはおられますか。

—一番長いことお世話になったのが飯住先生かな。飯住先生は元々、中学の頃の学年主任をやつて、サイテック部の顧問もやつたから。

—（僕が）サイテック部だったこともあり、多分一番関わり深かつたかなつていう。高校に上がった時、先生は中学残つてはったんで関わる機会は減りましたけどね。そうは言つてもすぐそこなんで、たまに会いに行つたりとかして。中学では、やっぱり飯住先生は、サイテック部で色々研究のデータを取つて、どうやつて分析して、どうやつて発表してを一通り教えてもらうみたいなので一番関わり深かつたかな。

—在学中にイベントとか色々参加しておられたじゃないですか。特に印象に残っている思い出とかあったりしますか。

—一番大きかったのが、日英サイエンスワークショップかな。こっち（京都）でやつた年に、向こう（海外）から生徒さんが来はつた時も参

加してたし、逆にこっちからケンブリッジ大学に行かしてもらって、そこで一週間ぐらいグループで研究して発表するみたいなやつがあったんですけど。その時が初めて実際に海外の大学見たりとかっていう機会があったんで、あれは面白かったですね。

―留学しようって思ったきっかけとかありますか。

きっかけはやっぱり日英（ワークショップ）が一番でかいかなと思います。今は生痕化石の研究をやってますけど、恐竜とかも昔から興味はあったし。そういう古生物学全般をやる場合は、やっぱり海外の方が進んでるなっていうのはあったんで、前から海外の大学への興味とかはあったんですけど、具体的に考え始めたのは、やっぱり日英サイエンスワークショップ参加してからですね。で、そのあと、マレーシアで、アジアサイエンスワークショップっていうのにも参加して。そうやって色々海外のサイエンスワークショップに参加するうちに、最終的に海外の大学とか良さそうやなっていう感じになりましたね。

―いろいろなイベントでたくさん交流あったと思うんですけど、今でも交流続いている人とかはいたりしますか。

もちろん。やっぱりそういう繋がりは生まれたね。特にマレーシアのワークショップはうちの高校代表っていうよりは、日本人団として行ってたから、特にその日本人の人らとの繋がりはずっと続いているかな。日本全国から集められてるからね。研究の道に進んでる人も多いしね。

―海外のイベントに昔から参加しておられてたと思うんですが、英語は何かやっておられたりしたんですか。

うん。昔から母親が色々教えてくれて。

―フロンティアコース（以下、FT）にいたら、結構この国内の大学を狙う人が多そうじゃないですか。それでも、FTに入ろうと思った理由

とかってあったんですか。

高校入った時点では海外行くかどうかっていうのは全然決まってなくて、FTに入りましたね。そのまま立命館行っても、やっぱり自分のやりたいことができる場所がないんで。

―FTのときは、高校の修学旅行はどこでしたか。

僕はベトナムやったね。

―どんな感じでしたか。

ベトナムは、戦争博物館行ったりとか、ベトナム戦争の時に生まれて、枯葉剤の影響で体が繋がって生まれた双子の方（ドクさん）とお会いしたりとかね。なんか全然趣旨とは違うけど、ちょうどその時日食があって、みんなでホテルの庭のところから見てた記憶が一番残ってるかな。あとは、なんか向こうの高校生との交流があったりとか、そういうのはありましたね。

カナダでの生活

―どんな趣味をお持ちですか。

車で適当にドライブしたりとか、最近結構スポーツ観戦したりとか。やっぱりカナダはホッケーとかが有名やから。ホッケーと、あとモータースポーツを見るのが結構好きですね。

―カナダのおすすめの場所とかあったりしますか。

カナダのおすすめの場所か。いや、うちの州はね。うん、なんもないよ。ロッキーがあるくらいかな。ロッキーとか、恐竜博物館とか。どっちかっていうと自然が近いんで、街にはなんもないです。

―どこかに出かけたりしますか。

僕の場合は結構バードウォッチングに行ったりとかですかね。（ス

マホで写真を出して指さしながら「これは、カナダのロッキーのジャスパアっていうところで撮ったやつかな。他にもよく鳥の写真を撮りに行くんで、フクロウとか撮れた時は、嬉しいなっていう。」

「人口もそんなに多くないんですか。」

うん、そうですね。何人ぐらいいるのか知らんけど。こじんまりした町で。バンクーバーとかトロントとか行けばね、もうちょい色々見るところとかあると思うけど。

「カナダで勉強していた時とかはどんなカリキュラムでしたか。」

基本的にはやっぱり大学の一年の頃はこつちと一緒で、基礎教育というか。僕は理学部なので、理系科目全般、数学とか生物学とか地学とかやってきました。で、二年、三年と学年が上がっていくうちに、より専門的な、授業を取っていくみたいな感じですね。僕の場合は地学とか生物学に特化した授業を受けてました。

「カナダで生活されててどんな感じですか。」

そうですね。めちゃくちゃ寒い。特に冬場は。うちは内陸の州なんです、マイナス三〇度とかいたりしますね。今（夏）はちようどいいぐらい。夏場はたまに三〇度行ったりはするけど、湿度があまりないから割と過ごしやすいんです。あとはたまに日本食が恋しくなったりもしますね。

「カナダならではの料理とか、おすすめありますか？」

「プーティン」っていう食べ物割と好きですね。フライドポテトにグレービーソースとチーズを乗つける、ちよつと体に悪そうな料理なんですけど。美味しいです。まあ、僕は普段自炊することが多いんで、結局日本食に寄せたものを食べてることが多いですけどね。

「カナダでの生活で不便なこととかはないですか。」

不便なことはもう色々ありますよ。まず、交通機関がね、日本ほどは発展してないから。バスに乗るにしても、治安がどうなのかなって感じやし。あとはね、コンビニは全然コンビニエンスじゃないし。卵が置いてたりとか、牛乳をおいたりとかでスーパーに近いかな。日本みたいにお菓子とか、ジュースが置いてたりはするけど。ここ（日本）みたにおにぎりはもちろんないし、お昼ご飯ちよつと買いに行こうで、コンビニにいくっていうのはあんまりかなって感じ。向こう（カナダ）はやっぱり、高速の距離が長いから、車関連のもの（エンジンオイルや冷却液など）がコンビニに置いてたりするのはちよつと面白いところかな。

「逆に、カナダに行ってなんか研究以外で、これは良かったなっていうこととかってありましたか。」

カナダはみんなフレンドリーでいいなと思うね。日本とは住みやすさのベクトルが違うって感じた。日本ってすごく便利な国やから。なんでも簡単に手に入るみたいな、そういう便利さとか住みやすさがあるけど、カナダは困ったときに人が優しくしてくれてとか、そういう感じの住みやすさがあるかな。

「カナダでの生活の中で、どんな人と関わりをもつことが多いですか。」

主には研究室の友達とか、日本人の集まりとかがメインにはなるかな。僕自身がそんなに、いろんなグループに行くみたいな人じゃないんで。

「大学には日本人も結構おられたりするんですか。」

短期で一年ぐらいの留学に来る方は割といたりするんやけど、正規の学生として来てる人は、一学年でも片手で数えられるぐらいしかいないかな。大体二〇人ぐらいかな。

―留学するのに、これやつといった方がいいなどか思うことありましたか。

うーん、もちろん英語かな。ありふれたことになってしまっただけ。あとは、その国のことをよく調べとくとか、そういうことかな。まあ、その場に行ってみるとわからんことの方が多いからね。だから、どっちかといえば、事前に準備しとくっていうよりは、実際に行ってみて、いろいろ挑戦していくみたいな、そっちの方が合ってるのかなと思う。どれだけ準備しても、うまくいかないみたいなことはしょっちゅうあるんで。

## 学生時代の生活

―中学校とか高校では、普段どんなふうに過ごしていましたか。

普段か。別にこれと言って特別なことはしてなくて。普通に来て、授業受けて、部活行つて、生徒会やつて。そんな感じやったな。

―生徒会にも入っておられたんですね。

そうですね。結構楽しかったですよ。行事を作っていくみたいなのがやっぱ楽しいし。体育祭とかね。僕はどっちかっていうと表に立つよりは裏方の方が好き。生徒会はどっちかっていうと全体を見る感じやから。校内で写真撮り回ったり、文化祭のときは出店のお手伝いとかもしたりしてましたね。

―行事で思い出に残っていることとかはありますか。

文化祭ですかね。僕らの頃は、高校生はみんな何かしらの劇をやるっていうのが伝統で。教室でやつたり、三年はホールを借りて発表しましたね。最近はジェットコースターもあると聞いて驚きました。―勉強とかはどんな感じでしたか。

苦手の教科とかも結構ありましたよ。でも昔から理系科目以外にも文化とかトリビア的なものは好きでしたね。今考えれば、昔は今ほど夜遅くまでは勉強してなかった気がします。

―結構コツコツとやる派でしたか。

自分の興味のあるところは割とコツコツやつたりはするけど。基本的にはやっぱなんとなかなる精神でやつてるような人間なんで。とりあえずなんかやつてみて。あかんかったらなんか他のこと考えたらいいや、みたいな。

―立命館守山の中で、思い出の場所とかあつたりしますか。

思い出の場所か。やっぱり実験室じゃないかな。この学校いっぱいあるよね。使われてなさそうな実験器具とかも色々あるし、使いたいぐらいやけどな。

―今日は貴重なお時間をいただきありがとうございました。

## 【感想】

果敢に自分が今いる環境とは違う環境へ飛び込んでいく姿勢が特に印象に残った。また、自分の好きな分野を突き詰めていった結果最終的に現在のあり方に繋がっているとところは尊敬だなと感じた。ただ怖気づいて立ち止まるのではなく、自分を見つめ直してやりたいことをとことん突き通していく芯の強さをもってこれから生活していきたいと思った。

(次ページへ)



右：聞き手 富沢絢花  
左：語り手 君付龍祐さん